

平成26年度岐阜女子大学教育課程 外部評価委員会議事要録

日 時

平成27年2月7日(土) 13時25分～16時00分

場 所

岐阜グランドホテル ルミエール(東館1階)

参加者

(1) 外部評価委員

◎出席者

- ・林 徳治：立命館大学教育開発推進機構・教授
- ・宮里 祐光：沖縄教育カレッジ・理事長
- ・福富 悌：福富医院・院長
- ・白井 道昭：清水建設株式会社名古屋支店・副支店長
- ・藤木 節子：岐阜県立岐阜城北高等学校・校長
- ・小関 雅司：静岡県総合教育センター総合支援課 高校Ⅱ班高校教育課
・参事兼班長
- ・早川三根夫：岐阜市教育委員会・教育長

◎欠席者

- ・小原 一芳：岐阜県高等学校PTA連合会・幹事

(2) 学内関係者

杉山理事長、後藤学長、生田図書館長、富士学生部長、森家政学部長、下野文化創造学部長、岸上健康栄養学科長、森住居学専攻長主任、三輪生活科学専攻主任、久世文化創造学専攻主任、森初等教育学専攻主任、藤田学長補佐、谷学長補佐、山口事務局長、時田キャリア支援センター長、國定事務局次長

司会・進行

両学長補佐が司会・進行し、委員会に先立ち外部委員の紹介があった。

1 開会あいさつ

- ◎ 後藤学長から、平成 26 年度大学機関別認証評価を受審し評価委員から意見をいただいたが、外部評価委員の先生方からも第三者としてのご批判をいただき、改善に努めたい等のあいさつがあった。
- ◎ 杉山理事長から、2018 年問題（18 歳人口の減）に対応するため、色々な取組みを試みているが、外部委員の先生方の意見を取り組みたい等のあいさつがあった。

2 岐阜女子大学教育実施状況の報告

富士学生部長から、教育課程の概要と大学機関別認証評価を受審した結果、「改善を要する点」がなかった、等資料に基づき報告があった。

3 各学科・専攻学修状況の報告

(1) 健康栄養学科の学修状況

岸上健康栄養学科主任から、3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）、長寿健康栄養学センター、等資料に基づき報告があった。

(2) 住居学専攻の学修状況

森住居学専攻主任から、本専攻の教育方針・教育目標・目的など PDCA の視点に立った実施状況の報告があった。

(3) 生活科学専攻の学修状況

三輪生活科学専攻主任から、3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）、長期休暇における課題の評価、夏季休暇における課題試験結果、など資料に基づき報告があった。

(4) 初等教育学専攻の学修状況

森初等教育学専攻主任から、4年間の体系的な教員養成プログラム（EGG プラン）など資料に基づき報告があった。

(5) 文化創造学専攻の学修状況

久世文化創造学専攻主任から、同専攻の構成、特色など資料に基づき報告があった。

(6) 遠隔教育（沖縄含）の学修状況

久世遠隔・通信教育部長から、遠隔教育における学修状況及び学び続ける教員への3つの支援など資料に基づき報告があった。

4 就職・進学状況の報告

時田キャリア支援センター長から、就職内定率98%、地元Uターン率80%以上、など資料に基づき報告があった。

5 平成27年度計画の報告

富士学生部長から、平成26年度活動状況で明らかになった課題・改善を要する点を加えながら、外部評価委員会での指摘事項も取り込みつつ確実に実行したいなど報告があった。

6 評価委員の皆様からのご講評

主な講評は次のとおりであった。

(1) 大学全体（林 徳治：立命館大学教育開発推進機構・教授、宮里祐光：沖縄教育カレッジ・理事長）

- ・大学全体として、PDCAが機能している。
- ・長期休暇中に学修を取り入れていることは評価できる。
- ・主専攻、副専攻が取り入れられているが、今後とも必要である。
- ・各学科、専攻によって目標の立て方にバラツキがある。
- ・2020年に開催される夏季オリンピックを控え、「異文化」を取り入れたカリキュラムが必要ではないか。
- ・授業科目（コア・カリキュラム）を明確にしたほうが良いのではないか。
- ・大学機関別認証評価を受審され、「改善を要する点」がなかったことは尽力の賜物である。
- ・学修ポートフォリオは、目的を持ったものにすべきである。

(2) 各学科・専攻の講評

1) 健康栄養学科の講評（福富 悌：福富医院・院長）

- ・グレードアップテストが行われているが、学生自身に「やる気」を
起こさせており評価できる。
- ・将来を見据えた取組み（実践型補修授業の充実、地域連携活動の充
実など）がなされており今後とも進めていただきたい。
- ・管理栄養士の養成は、今後とも必要であり岐阜女子大学に期待して
いる。

2) 住居学専攻の講評（白井 道昭：清水建設株式会社名古屋支店・副支店 長）

- ・座学のみでなく、実習を取り組んだ授業形態となっており実践力の
向上に繋がっている。
- ・入学前課題の補完学修課題「数学基礎」を取り入れるなど、きめ細
やかな学修と指導となっており、自宅で学習でき、しかも他の大学
にはない取組と思われるので、もっと PR すべきである。
- ・コア・カリキュラムと構成科目は十分と思われるが、コミュニケー
ション能力を向上させる必要があるのではないか。
- ・講義に建築基準法も必要であるが、民法の講義があってもよいので
はないか。

3) 生活科学専攻の講評（藤木 節子：岐阜県立岐阜城北高等学校 校長）

- ・学生を大切にしていると感じた。
- ・「将来、裁縫ができる」など生きる力が必要である。
- ・本高校に貴学の卒業生がいるが、まじめであるが柔軟性が乏しいと
感じている。
- ・教員採用試験（家庭科）に合格しなかった場合、原因を分析するな
ど次のステップに繋げることが大切である。
- ・岐阜女子大学のよい点を県内にもっと PR することが大切である。

4) 初等教育学専攻の講評（小関 雅司：静岡県総合教育センター総合支援 課 高校Ⅱ班高校教育課・参事兼班長）

- ・きめ細やかな教育と指導が行われており、責任を持って生徒を岐阜

女子大学に送ることができる。

- ・PDCAを廻すことによって、教科の指導力を付けさせる必要がある。
- ・幼稚園と小学校の接続を視野に入れては如何か。
- ・「児童生徒が、生命を大切に作る心や他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識等の道徳性を身に付けることは、とても重要である」との観点から、道徳を教科として取り入れては如何か。
- ・「理論と実践の往還」という自信を持った教科教育をしていただきたい。

5)文化創造学専攻の講評（早川 三根夫：岐阜市教育委員会・教育長）

- ・教員免許更新講習が単位化されることに期待している。
- ・イノベーション人材が求められているが、単なる教材開発ではなくプレゼンテーションができる人材の育成が必要である。
- ・ボランティアが単位化されていないが、今後は必要と思われる。

6)遠隔教育の学修の講評（早川 三根夫：岐阜市教育委員会・教育長）

- ・ICT（タブレット端末を使用）教育が貴学の強みである。
- ・「理論と実践を融合」は、評価できるのではないか。
- ・岐阜市では司書の採用を控えていたが、市立図書館を建設することから司書を採用したいと考えている。

7 閉会あいさつ

富士学生部長から、謝辞と頂いた講評を基に改善を図りたい等あいさつがあった。

※用語解説

【学修ポートフォリオ】

学生が、学修過程並びに各種の学修成果（例えば、学修目標・学修計画表とチェックシート、課題達成のために収集した資料や遂行状況、レポート、成績単位取得表など）を長期に亘って収集、記録したもの。